

長時間労働の強制

三池港務所の合理化

会社は去る一月十九日、港務所の合理化案を提示し、三池港組と話し合い途中で二月一日、ついに施行実施した。この合理化の内容は一口にいって、三井鉱山の増産に伴う輸送増大にもかかわらず人員は逆に停年退職その他自然減耗の無補充のため生産と人員とのアンバランスをきたし、その克服策として労働強化、長時間労働の増進を図る、まわめて前時代的安上がりの合理化の典型となつてゐる。

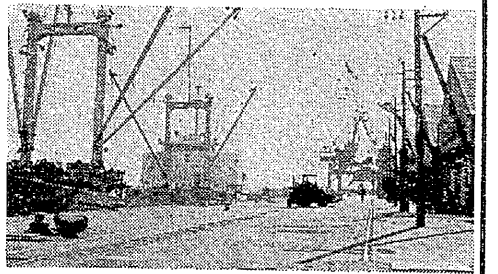
なぜこのような合理化を出したか

三井物産(株)の三池港務所(以下三池港組)は昭和三十九年八月一日付で、労働者のいかなる不安や反対をおしきり、専用鉄道から地方鉄道への切り替えを強行した。ついで四月一日には三井鉱山からの企業分離を、またも労働者の意志に反して強行してゐる。さらにはあと港公團も組合の三池港組から

の独立など、つぎつぎと二連の合理化を準備してゐる。労働者には、このような合理化は、反労働的なるものならざるを得ない。その反面、ますます矛盾を拡大し、労働者に抵抗を自覚させるので、労働組合の懐柔と抑圧をめぐる労資の攻防もまた激突するに必至となる。

会社の狙っていることは

会社の意図は、すでに提案内容を



年間で現在の四三二名から三〇〇名余の二〇％もの大幅減員となる。しかも三井鉱山の増産計画は著しく増大するに、無補充といふことは、あくまで資本の利潤を目的とする低賃金を固定化したまま、作業量だけは無限大に強制しようとする反動政策である。

長時間勤務制への布石
港務所では長時間勤務制を、三交代勤務による作業方式を、今回三交代に切りかえたのは、本職と出先信号所の指令・指示による従来の列車操作方式を、今後は遠隔操作または兼務作業のやり方を以て行ない、出先信号所などの作業員を削減する(二五名)人へらし合理化の第一強である。

今後五年間の自然減耗を無補充
現在港務所の職員在籍の約半数を占める運輸課の在籍は、今後五年間で二月一日までの期限付交差と強行からその性格、すなわち組合無視の耐え難い労働強化を狙つてゐることは明らかである。提案内容の大綱は、次の通りである。

業によって処理する作業方法は、当面はまず拘束作業を日常化する。ことに、将来は現在の八時間勤務制を二時間一四時間制に切り替える布石として、今後の労働条件を左右するもとも基本問題として重視すべきであろう。

予備員制度の強化
今次合理化の基調が人員不足に深く根ざしてゐるのに、却つて定員を減らし予備員を作るのは、明らかに矛盾する。その会社意図の第一は、定員枠を減らし欠勤者の穴を運動・残業を半減させるもので、労働者には基準外収入の大幅の合理化となる。なお、もう一つは予備員の作業となるが、予備員の主目的は欠勤者の欠員補充だから、日常は専らむりなどの雑作業となる。それは「オレに反対するなら予備員に回す」と、職制の権限強化や差別の手段として悪用される。

合理化の矛盾はすでに現われている
基本的な解決方法は、作業量増大に對して人員の不足だから人員充足しないはずである。それを会社は労働強化や長時間拘束作業によつて解決しようとしたが、第二組合内部でも「これは身体がもたぬ」と欠勤者が増え、その穴のみに基準違反の二方連動・三方連動まで続出してゐる。これで労働者はいよいよ疲れきり、やがて生産はゆきまるといふ懸念がたかねばならぬ。

三交代勤務による作業方式を、今回三交代に切りかえたのは、本職と出先信号所の指令・指示による従来の列車操作方式を、今後は遠隔操作または兼務作業のやり方を以て行ない、出先信号所などの作業員を削減する(二五名)人へらし合理化の第一強である。

今次合理化の基調が人員不足に深く根ざしてゐるのに、却つて定員を減らし予備員を作るのは、明らかに矛盾する。その会社意図の第一は、定員枠を減らし欠勤者の穴を運動・残業を半減させるもので、労働者には基準外収入の大幅の合理化となる。なお、もう一つは予備員の作業となるが、予備員の主目的は欠勤者の欠員補充だから、日常は専らむりなどの雑作業となる。それは「オレに反対するなら予備員に回す」と、職制の権限強化や差別の手段として悪用される。

「解放の戦略」は統一のための応用と、創意工夫のなから公平で豊かな社会づくりの励ましになると思う。

「遊撃戦」より学んだ一例として、三池港組全員が資本の本質を見ぬき活動家になったとき、はじめて統一が容易にできると教えられた。「ゲバラ」は、われわれは共通の経済的・社会的目標により自らの運命を改善しようとする共通の願望によつて団結してゐる。

団結するのは、宗教や人種や民族によつてではなく、みづからの運命を改善しようという願ひからであるといつてゐる。まさにわれわれにピンとくる言葉ではないだろうか。一読をおすすめしたい。

「解放の戦略」
毛沢東とゲバラ
リデル・ハート編
番町書房 四二〇円

われら五人組

(3)

ねらわれる感情対立

話し合い、みんなで抗議

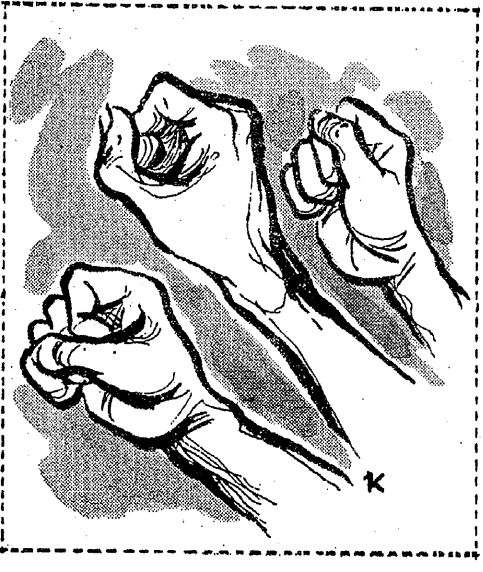
雑作業(ハネ出し)をどう考えるか?

四山支部採炭五〇〇M二組の五人組の皆さんを訪ねた。組合議は、一番方あたり四山支部でひらかれたが、出席は組長の谷川さん以下浦口さん、西坂さん、林さん、福島さんの全員。議題は最近、とくに五〇〇M移行後になつた「雑作業(ハネ出し)」(ハ配置転換による一方的な会社の強圧)をどう考えるか。

切り崩しハネ返す

まず、この五人組を紹介すると、二日目は行つても係員は二組が結成されたのは三十七年ごろから、名しか家に入れてくれず、代表者があつたが、三年ぐらゐり前からが抗議したが、三日目は他の五人組会議と組活動が軌道にのつた。組の応援を得て押しかけたが、係員は電灯もつけず、会つても入れぬのは、一昨年の二月に係員の不当な説得によつて、ついに三名が脱落したときだつた。

た、今後どうすれば要求・抗議がでるかをみんな話し合つて、みんな抗議することを決定した。それから間もなく、ちょうど三日間連続して係員の自宅を訪ねた。



この結果、係員の不当な説得はその後行なわれなかつた。もちろん執りまわされる体制は、最近また動きだしたので、「もう一度やつ」と話し合つてゐる。

「ゴタゴタをねらう」
五人組の中でも、分會の中でも三池港組員ならば本来作業と雑作業の割合が半々くらいが普通だが、中にはほとんど雑作業にやられる人も、ほとんど本来作業にやられる人もゐる。

「絶対にはげん」
もう口で説得しても酒をのませても動かないという者が残つてゐないので、会社も長期にわたるに攻撃をかけてゐる。そこをよく考えて、ネを上げないようにしよう。

「たこえ押し切られても」
雑作業をして出勤してゐるのではない。おれおれたちは、ちゃんと採炭工という名義をもち、採炭をするため出勤してゐる。おれおれの維持ならぬ。少な々の差別配役に負けたら突如抗議すべきだ。係員は押し切られる。

「大地評駅伝」
三月六日は午前二〇時大牟田市役所前をスタートし、一区桜町まで、二区桜町より大牟田市役所前、三区大牟田市役所前より尾尾市役所前、四区尾尾市役所前より緑ヶ丘社宅事務所前、五区緑ヶ丘社宅事務所前より勝立朝日ヶ丘社宅より三化平野山売店前、七区三化平野山売店より官部西鉄バス停、八区官部バス停より下尾崎タバコ店前、九区下尾崎タバコ店前より銀水園入口、一〇区銀水園入口より大牟田市役所前の全コース四六、九Kを走る。

出場チームは、三化A・B、三煉、西鉄、東庄、合成、金通、市取、三池A・B、合同、国鉄、市教組、県取、日本紙の一五チーム